

「地図情報共有化のために」研究会開催される

GCOE プログラム「境界研究の拠点形成」は、地域研究コンソーシアム・情報資源共有化研究会、同地域情報学研究会、および、「地域環境情報ネットワーク事業」との共催で、11月8日(日)の午後、京都大学稲盛財団記念館において、研究会「地図情報共有化のために」を行いました。

この研究会は、地域研究において基本的資料である地図のメタデータ規格づくりや、デジタル化の推進、Web 上での公開にかかわる諸問題を、専門の垣根を越えて検討しようとした試みで、プログラムは、以下に掲げたとおりです。

図書館において、地図は守備範囲に入っていることは一応認知されつつ、必ずしも十分な手当がなされてこなかった分野と思われます。地図が主にデジタルの形で流通しようとしている現在、その動向をふまえて、そのメタデータなど、その流通の前提となる条件の整備やデータの管理をどのように進めていくべきか、多角的に考えていく必要があるように思われます。今回の研究会は、そうした問題のほんの一端を扱ったに過ぎませんが、これからも継続的に取り組む必要がある課題と痛感しました。

なお、この研究会の概要は、GCOE の出版物として刊行を予定しております。

プログラム：

- 「アジア太平洋地域の環境資料としての外邦図： 外邦図デジタルアーカイブの構築とその利用」
小林茂(大阪大学)、山本健太(東京大学)
- 「京大東南研の所蔵地図資料」
柴山守(京都大学)
- コメント 杉村晃一(駿河台大学)、藤井毅(東京外国語大学)、山本順一(桃山学院大学)
- 「国土地理院が進める地理空間情報の共有化」
田中大和(国土地理院)
- 「地域環境情報ネットワーク事業について」
関野樹(総合地球環境学研究所)



(兔内勇津流、スラブ研究センター図書室)